「地域で頑張る企業・NPO」を“つたえ”“つなげる”
学生レポーター 取材まとめ

取材日時：平成 25 年 10 月 30 日（水）
取材先：横浜ゴム株式会社三重工場（伊勢市）
レポーター名：駿河、倉田、伊藤、黒

◇◆◇

横浜ゴム株式会社三重工場の環境保全活動

今年で 70 周年を迎える横浜ゴム三重工場は、長年の間、トラック、ライトトラック用のタイヤを主体として製造・販売してきた。

しかし、ここ数年はそれに限らず、環境保全活動に従事してきた。

では、どのような活動が行われているのだろうか。

➢ 植樹活動

横浜ゴム株式会社三重工場は、宮川流域の自然にも恵まれた地域に位置する。しかし、以前はそれ以上に緑があった。現在、宅地化により川の水位が低下しつつあることが背景にある。横浜ゴム株式会社でも、冷却水として利用するために、宮川の伏流水を汲み取り、使用済みの水を川に排水するという水の循環で生産を行っている。そのような状況が相絡まり、水源を守らなければ、という気持ちに繋がっていったという。

そのための活動が、千年の杜プロジェクトという植樹活動であった。各地からどんぐりを拾ってきて、自社で苗木まで育て、それを地域の方々と協力して植樹するというものである。もちろん最初から苗木を育てる技術を熟知していたわけではない。一人一人が勉強・調査・経験を重ねていくことによって学んでいき、プロジェクトを大きくすることに成功した。そして、現在では従業員皆が楽しく植樹活動を行っているという。

➢ 生物多様性保全活動

生物多様性保全活動の一環として、自社が生態系にどれほど影響を与えているかを調査する為に、近隣地域の生態系調査を始めた。そのような調査のために、ビオトープも作られた。工場排水を一度ビオトープに貯め、そこでどのような生物が観測されるかを調査して、自社の工場排水が生態系にどう影響しているかを調べている。その結果、横浜ゴム三重工場ではほぼ中性できれいな水を排水していることが分かった。そして、ビオトープでは、タイコウチやギンヤンマ、ゲンゴロウなど沢山の生物が住んでいることも分かった。このような調査結果をもとに、更にきれいな水を排水し続けるように調査、取組みを続けていくようだ。

➢　環境保全活動を通して…

最初は何のためにやるのだろうかという疑問を抱いた状態で始まった環境保全活動であったが、今では大きな活動となった。それを継続していける原動力は何だろうか。

まず一つとして、達成感がある。数値改善のように、環境保全に少しでも貢献できていると実感したとき、この活動をやっていて良かったな、と思い、それが活動継続の原動力になっているそうだ。

更に、木を切るなど、普段はできないようなことを経験できるということにもやりがいを感じるようだ。

また、環境保全活動を通して、ただ単に良いところと悪いところに〇×をつけていくわけではなく、良いところを認め、更にそれを維持していく努力をすることが大切であると話されていた。

一方で、この活動には、地元の小学生も参加している。子どもたちは、自らが体験することで、授業のみでは知ることのできない自然や生物の大切さを学ぶことができているようだ。そうした子供達の笑顔が見られるというのも嬉しさの一つになっている。

➢　最後に

横浜ゴム株式会社では、これまでに挙げた以上に様々な環境に配慮した活動を行っている。そうした活動をここまで継続していくためにはやはり利益を無視したやりがいや楽しさがそこには必要となってくる。

「私たちが環境保全活動をしているのは、今ある課題に等しく目を配りつつ、活動を未来に繋げていくためである」と話されていた方がいた。その言葉からは、今までみてきたような地域・環境に配慮した活動を従業員一人一人が向上心をもって継続していることがうかがえる。将来、横浜ゴム株式会社は未来の地球環境に、また未来の地域社会にどのような風を吹かせているのだろうか。今後の活動にも是非注目して頂きたい。